

令和4年度「重層的支援体制構築推進人材養成研修」 <基礎編> 共通カリキュラム②ライブ研修

2022年11月15日（火） 9:30～12:30

本日のタイムスケジュール

時刻	形態 (時間)	内容
9:30	(2分)	・ 開会
9:32	講義 (8分)	・ イントロダクション
9:40	講義 (45分)	・ 坂井市、高島市による取組事例報告
10:25	ワーク (10分)	・ 市町村内ワーク ※都道府県への役割説明
10:35	ワーク (50分)	・ 市町村間ワーク
11:25	休憩 (10分)	
11:35	講義 (45分)	・ 参加市町村からの取組共有
12:20	講義 (10分)	・ 実践演習②ガイダンス
12:30	—	・ 研修終了後、各市町村において実践演習の作業方針や段取り・分担を確認して解散

1

1. 本研修（基礎編）の全体像
2. 本日の研修内容
3. イントロダクション・取組事例報告
4. 市町村内ワーク
5. 市町村間ワーク
6. 参加市町村からの取組共有
7. 実践演習②ガイダンス
8. 次回に向けた連絡事項

1. 本研修（基礎編）の全体像

— 到達目標

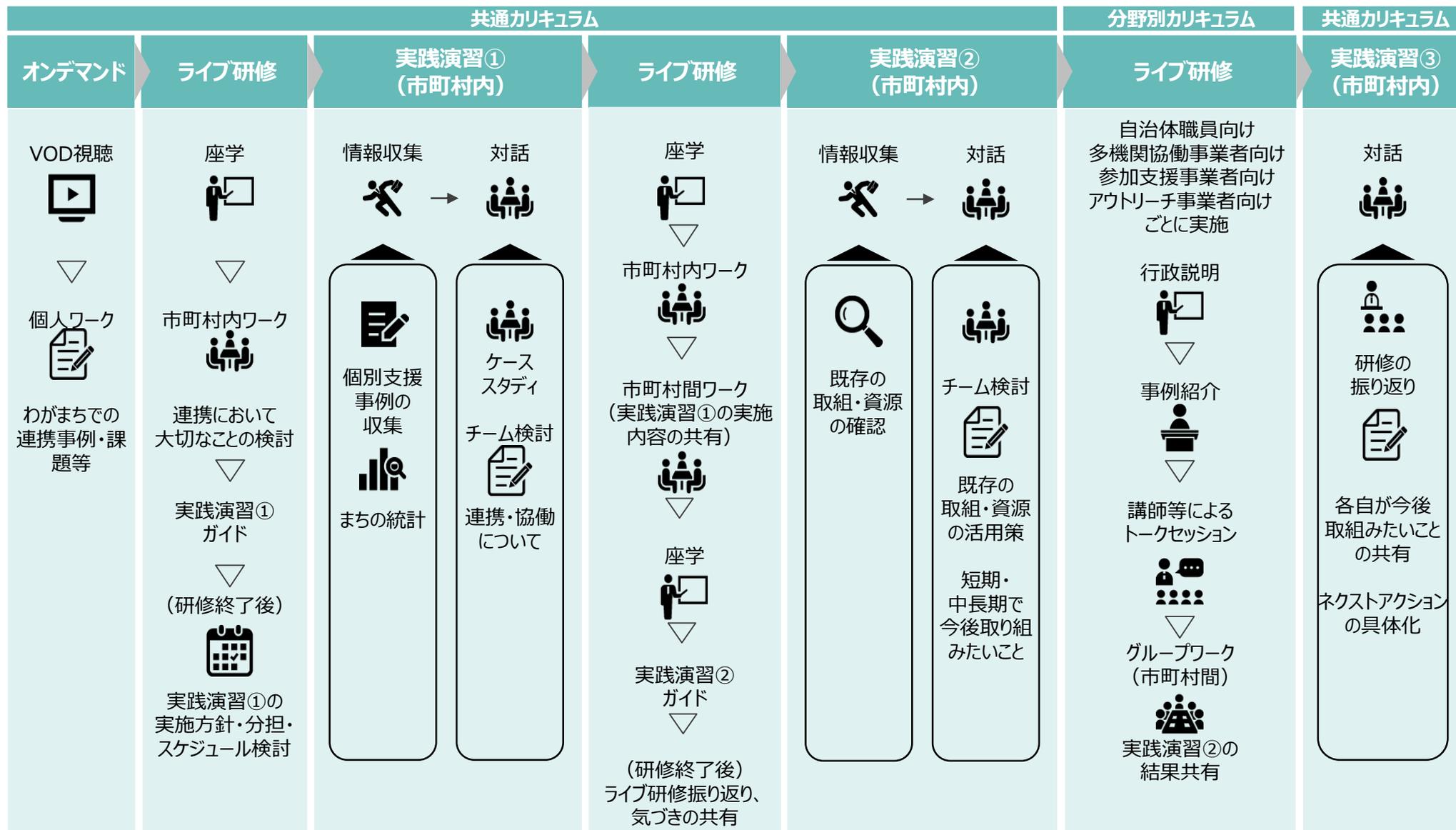
- 重層事業の推進にあたっては、制度の理念や考え方、実践方法を理解するだけでなく、**地域の関係者ととも現実に問題に向き合い、課題認識を共有し、同じ方向を向いて協働**していくことが必要である。
- そこで、基礎編研修の一環として、わがまちの個別支援事例や課題、地域資源、既存の取組等について収集・共有し、対話を通じて協力者との相互理解を深め、**連携して取り組む意義や具体的に取り組んでいきたいことを見つける**ことを目指す。

最終的な 到達目標

- ✓ 重層事業の必要性について“腹落ち”している。わがまちで起きている問題や活かせるような取組等を重層の理念とともに自分の言葉で語れる。
- ✓ 庁内外の主要な関係者間※で、研修終了後も主体的に連携が図られる。仲間ができる。※特に、重層事業の枠組みを整備する担当者、分野別事業の担当者、委託事業者の担当者
- ✓ 研修終了後に、庁内外の関係者と協力して取り組みたいことを見出せる。

1. 本研修（基礎編）の全体像

— 研修の流れ



1. 本研修（基礎編）の全体像

— 研修の心構え

- 本研修は、各市町村での重層的支援体制の構築に向けた実践型のプログラムとなっています。
- 学んで終わりにするのではなく、関係者同士の連携を深める研修として活用ください。

2

1. 本研修（基礎編）の全体像
2. 本日の研修内容
3. イントロダクション・取組事例報告
4. 市町村内ワーク
5. 市町村間ワーク
6. 参加市町村からの取組共有
7. 実践演習②ガイダンス
8. 次回に向けた連絡事項

2. 本日の研修内容

到達目標

- ✓ 「連携」から「協働」へのプロセスの理解を深める
- ✓ “取り組みかた”に正解はなく、関係者との対話と合意形成がポイントであると理解する
- ✓ これまでの取組や資源を活かす視点を得る
- ✓ （都道府県）地域の実情を知り、都道府県としての役割を見つける

日	タイトル	形態	到達目標	担当
事前課題	・ 実践演習①	ワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・ わがまちの「連携」や「協働」のあり方について、実態に即した検討を行う。 ・ 市町村内の関係者間でお互いのことを理解し、より良い「連携」や「協働」につなげる。 	各自
9:30	・ 開会	(2分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本日の目標と流れを理解する。 	事務局
9:32	・ イントロダクション	講義 (8分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「連携」から「協働」へのプロセスの理解を深める。 ・ “取り組みかた”に正解はなく、関係者との対話と合意形成がポイントであると理解する。 	永田先生
9:40	・ 取組事例報告	講義 (45分)		坂井市 高島市
10:25	・ 市町村内ワーク	ワーク (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ わがまちの「連携」から「協働」へのプロセスを振り返る。 	市町村
10:35	・ 市町村間ワーク	ワーク (50分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他市町村の実践と気づきに学び、わがまちの取組を振り返る。 ・ （都道府県）地域の実情を知る。 	市町村 都道府県
11:25	・ 休憩	(10分)		
11:35	・ 参加市町村からの取組共有	講義 (45分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ わがまちの取組に活かせるヒントを見つける。 ・ これまでの取組や資源を活かす視点を得る。 	市町村 講師陣
12:20	・ 実践演習②ガイダンス	講義 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実践演習の趣旨と内容を理解し、チームで取り組む準備をする。 	事務局
12:30～	・ 研修終了後、各市町村での実践演習の作業方針や段取り・分担を確認して解散			市町村

3

1. 本研修（基礎編）の全体像
2. 本日の研修内容
3. **イントロダクション・取組事例報告**
4. 市町村内ワーク
5. 市町村間ワーク
6. 参加市町村からの取組共有
7. 実践演習②ガイダンス
8. 次回に向けた連絡事項

本日の講師・スピーカー

永田 祐 (ながた ゆう)

同志社大学 社会学部 教授

坂井市 (さかいし)

健康福祉部 福祉総務課 斎藤 正晃 さん、他参加者

高島市 (たかしまし)

社会福祉課くらし連携支援室 清水 潤平 さん、他参加者

3. イントロダクション・取組事例報告 — 基礎編の目標の確認

基礎編の最終的な到達目標

- 重層事業の必要性について“腹落ち”している。わがまちで起きている問題や活かせそうな取組等を重層の理念とともに自分の言葉で語れる。
- 庁内外の主要な関係者間※で、研修終了後も主体的に連携が図られる。仲間ができる。
(※) 特に、重層事業の枠組みを整備する担当者、分野別事業の担当者、委託事業者の担当者
- 研修終了後に、庁内外の関係者と協力して取り組みたいことを見出せる。

共通カリキュラム①

【オンデマンド】

- 重層事業の目指す姿を理解する。
- わがまちでの連携事例、課題、活かせそうな取組を挙げる。

【ライブ】

- よりよい連携のためにできることを一人ひとりが考える。
- 関係者それぞれの見えている景色が違うことへの理解を深める。

共通カリキュラム②

- 「連携」から「協働」へのプロセスの理解を深める
- “取り組みかた”に正解はなく、関係者との対話と合意形成がポイントであると理解する
- これまでの取組や資源を活かす視点を得る
- (都道府県) 地域の実情を知り、都道府県としての役割を見つける

今日は
ここ

3. イントロダクション・取組事例報告 ー 共通カリキュラム①ライブ研修の実施内容・実施結果

- 共通①ライブ研修アンケート結果のうち、「市町村内のグループワークで検討して決めた『連携で、最も大切なたった1つのこと』を表すキーワード」については、「相互理解・価値観の共有」や「関係性」「信頼関係」に関するキーワードが多く見られた。

テーマ	市町村内のグループワークで検討して決めた「『連携で、最も大切なたった1つのこと』を表すキーワード」
相互理解、 相手を知る、 価値観の共有	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相互理解（福井県越前市、福岡県岡垣町、岡山県岡山市、香川県高松市、岩手県盛岡市） ・ 理解（岐阜県岐阜市、茨城県古河市、広島県廿日市市） ・ 知る（三重県御浜町） ・ 相手先を知る（北海道七飯町） ・ 互いの価値観を知る（愛知県春日井市） ・ 相手の立ち位置を知る（神奈川県逗子市） ・ 目指すものを理解し共有する（福岡県大牟田市） ・ 共有（愛知県豊田市） ・ お互いさま（熊本県大津町） ・ 目指す先は同じだから理解できなくても認め合う（福岡県久留米市） ・ 我が事（福島県福島市） ・ 情報共有・お互いを知り、一緒に歩む（埼玉県草加市） ・ 対話・理解・協働（千葉県柏市）
関係性	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボーダーレス（佐賀県佐賀市） ・ 役割（大阪府阪南市） ・ 人間関係（群馬県上野村） ・ 育ちあう（滋賀県高島市） ・ つながりつづける（兵庫県姫路市） ・ 顔の見える関係づくり（大阪府東大阪市） ・ 人（山形県山形市） ・ 奥行き・フィードバック（愛知県長久手市）
信頼関係、 チーム意識	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安心できる信頼関係（高知県中土佐町） ・ 信頼関係（鳥取県鳥取市） ・ チーム意識（三重県桑名市） ・ Our team（兵庫県尼崎市）
支援方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本人中心支援（兵庫県芦屋市） ・ 本人ファーストの支援（三重県伊勢市） ・ 傾聴（秋田県大館市）

3. イントロダクション・取組事例報告 — 実践演習①の「ネクストアクション検討シート」

- 実践演習を通じて、連携の必要性の認識を高め、進捗や段階は様々だが「取り組みたいこと」が明確になってきている。
- 連携の具体的な方法や支援技術については分野別で取り扱うこととしたい。

(1) 最初に取り組みたいこととその理由

- 重層事業の周知・啓発、つながる大切さの発信
- 支援者・機関の顔の見える関係づくり（支援者カフェ、庁内会議、支援者間会議）、相互理解（関係課・機関の役割、業務、組織機能、価値、人事交流、リスト作成）、一つの機関を孤立させない体制づくり
- 支援の方向性の認識合わせ（勉強会、事例検討、事例共有、お互いの判断基準の確認、ケース会議）
- 人材育成、学びの場づくり（アセスメント力、コーディネーター、福祉分野の行政職員向け研修）、事例集作成、支援者バックアップ
- 多分野との連携（教育、医療、ペット、警察、司法、地区担当者）
- 緊急性の高い事案に対する初動対応の体制整備
- 情報共有、ケースの管理・システム化
- 早期把握、見守り体制づくり、自治会・民生委員・通いの場等との連携、相談会、行政職員がまちの各種会議に出向く、相談体制づくり
- 居場所づくり、社会資源を知る ・ 先進地を知る

(2) 更に調べたり検討したりしたいこと

- 関係者をつながる場づくり
- 各機関の事業内容の情報収集
- 地域ごとの生活課題や困りごとの把握
- 多職種連携を促進できるような研修
- 社会資源の調査・洗い出し（例：既存居場所の情報整理、医療機関や地域のサロン等、協働するにあたり資源となりそうなものの状況把握、近隣市町村を含めた社会資源の把握 等）
- 福祉分野に限らない人材とのつながり（例：教育と福祉との連携を実現するため、SSWやSCと連携し、家庭での困りごとを福祉担当とも連携し、卒業しても困らない、つながる仕組みづくりに取り組む 等）
- 他機関や地域の支援機関等との情報連携時の個人情報の取り扱い

(3) ライブ研修で意見交換したいこと

- 関係機関同士の顔の見える関係づくりの工夫、取組事例
- 多分野連携の事例等（例：地域、企業、教育、警察 等）
- 連携をスムーズに行うための研修や勉強会の有無、内容、対象、頻度。
- 関係部署との連携（例：庁内他課への重層事業の理解促進、協力が得にくい部署の巻き込み、関係部署との垣根を低くする工夫 等）
- 重層会議（負担がなく効果的な方法、頻度、参加者、進行、会議後の機関間のつながり）
- 連携方法（連携フロー、マニュアル、ルール、様式、情報共有ツール、個人情報の取り扱い、）
- 誰が対応しても同等のサービスが提供できる体制づくりのための取組
- 既存の社会資源の活かし方
- 支援技術（支援の同意、拒否対応、アセスメント、複数機関によるプラン作成、目標設定、診断がつかない人への支援、うまくいかない場合の対応、終結、支援内容の評価）

(4) 実践演習①を通しての新たな気づき

- 連携の必要性・重要性・効果（例：関係者同士がお互いの目的を共有し行動することの必要性、大切さに気付いた。他部署との連携の必要性を感じた。担当者レベルのつながりの大切さを痛感した。連携・共有が地域の理解を得るためにも大切。 等）
- 個別事例をベースとした検討の効果（例：個別事例を出し合って話すことで、各々の立場や視点、思いがわかった。 等）
- 相手の視点の理解（例：それぞれが担当している分野の課題を話し合うことで相互理解が進んだ。顔合わせして、個々で対話をして初めて、相手がどんな立場でどんな仕事をしているのかが理解できた。 等）
- 地域資源への気づき（例：公的な資源のみでなく、地域にある資源を有効に活用することで、適切な支援につながることができる。今ある資源を理解することで、対象者のマッチング等できることが多々あるのではと感じた。 等）

3. イントロダクション・取組事例報告

ー「ネクストアクション検討シート」から見えてきた「連携」の課題

- ネクストアクション検討シートで出された連携や協働づくりに向けて現状の課題と取り組みたいことを、要素を要約して「連携の過程」（ライブ研修：上原先生講義資料）ごとに分類。

連携の過程	ネクストアクション検討シートから見えてきた連携の課題等
①単独解決できない課題の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・重層事業で対象とする（連携が必要な）ケースの認識・支援イメージの共有 ・課題を把握するアセスメント（所管の制度以外の課題の把握）
②課題を共有しあえる他者の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・各支援機関との顔の見える関係づくり、事業内容の把握 ・支援者間での対話、立場の理解、信頼関係の構築
③協力の打診	<ul style="list-style-type: none"> ・円滑な連携につながるちょっとした配慮 ・まず自らが間口を広げた支援を行った上での協力依頼 ・関係機関に依頼できる事案と決めつけることなくお互いの考えの確認
④目的の確認と一致	<ul style="list-style-type: none"> ・複雑化・複合化したケースについて、関係機関で支援方策の検討をする意義や効果の理解 ・問題が悪化する前の早期支援の必要性の理解 ・つながり続ける支援の必要性や支援方法の理解
⑤役割と責任の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの役割、できること、できないことの確認 ・それぞれどのような視点で支援が必要なのかを理解 ・お互いの判断基準の確認（言語化して共通認識できるように） ・多機関協働事業者の役割の整理（各相談支援機関間の通訳者）
⑥情報の共有	<ul style="list-style-type: none"> ・共有が必要な情報の整理 ・情報提供者へのフィードバック
⑦連続的な協力関係の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・この人だからできる、できないではなく機関としてうまく機能していく必要性 ・いつ誰が対応しても組織として同等のサービスが提供できる組織体制の実現
特定の機関との①～⑦	<ul style="list-style-type: none"> ・連携先として、福祉分野以外の課、医療機関、MSW、保健所、教育・学校関係、ペット、民生委員、地域住民等との①～⑦が課題として挙がっている。

支援者間で**顔の見える関係**を作り、**対話**を重ね、**信頼関係**を構築し、相互に協力することのメリットや**ルール**や**ツール**に合意していくプロセス

（個別の）連携から（機関間の）協働へ

3. イントロダクション・取組事例報告 — Memo

✓ 連携の過程も意識しながら、取組事例報告を聞いてみましょう。

<連携の過程>

①単独解決できない課題の確認

⑤役割と責任の確認

②課題を共有しあえる他者の確認

⑥情報の共有

③協力の打診

⑦連続的な協力関係の展開

④目的の確認と一致

特定の機関との①～⑦

4

1. 本研修（基礎編）の全体像
2. 本日の研修内容
3. イントロダクション・取組事例報告
4. 市町村内ワーク
5. 市町村間ワーク
6. 参加市町村からの取組共有
7. 実践演習②ガイダンス
8. 次回に向けた連絡事項

4. 市町村内ワーク

目的

わがまちの「連携」から「協働」へのプロセスを振り返る。

- ✓ 取組事例報告を受けての気づきとともに、わがまちでの「連携」「協働」に向けての課題を話し合ってみましょう。（10分）

連携の過程	ネクストアクション検討シートから見えてきた連携の課題等
①単独解決できない課題の確認	<ul style="list-style-type: none"> 重層事業で対象とする（連携が必要な）ケースの認識・支援イメージの共有 課題を把握するアセスメント（所管の制度以外の課題の把握）
②課題を共有しあえる他者の確認	<ul style="list-style-type: none"> 各支援機関との顔の見える関係づくり、事業内容の把握 支援者間での対話、立場の理解、信頼関係の構築
③協力の打診	<ul style="list-style-type: none"> 円滑な連携につながるちょっとした配慮 まず自らが間口を広げた支援を行った上での協力依頼 関係機関に依頼できる事案と決めつけることなくお互いの考えの確認
④目的の確認と一致	<ul style="list-style-type: none"> 複雑化・複合化したケースについて、関係機関で支援方策の検討をする意義や効果の理解 問題が悪化する前の早期支援の必要性の理解 つながり続ける支援の必要性や支援方法の理解
⑤役割と責任の確認	<ul style="list-style-type: none"> 互いの役割、できること、できないことの確認 それぞれどのような視点で支援が必要なのかを理解 お互いの判断基準の確認（言語化して共通認識できるように） 多機関協働事業者の役割の整理（各相談支援機関間の通訳者）
⑥情報の共有	<ul style="list-style-type: none"> 共有が必要な情報の整理 情報提供者へのフィードバック
⑦連続的な協力関係の展開	<ul style="list-style-type: none"> この人だからできる、できないではなく機関としてうまく機能していく必要性 いつ誰が対応しても組織として同等のサービスが提供できる組織体制の実現
特定の機関との①～⑦	<ul style="list-style-type: none"> 連携先として、福祉分野以外の課、医療機関、MSW、保健所、教育・学校関係、ペット、民生委員、地域住民等との①～⑦が課題として挙がっている。

支援者間で**顔の見える関係**を作り、**対話**を重ね、**信頼関係**を構築し、相互に協力することのメリットや**ルールやツール**に合意していくプロセス

➡ **(個別の) 連携から (機関間の) 協働へ**

※ 都道府県職員は、この時間を使って次のセクション「市町村間ワーク」の進行方法を確認します。

4. 市町村内ワーク —Memo

5

1. 本研修（基礎編）の全体像
2. 本日の研修内容
3. イントロダクション・取組事例報告
4. 市町村内ワーク
5. 市町村間ワーク
6. 参加市町村からの取組共有
7. 実践演習②ガイダンス
8. 次回に向けた連絡事項

5. 市町村間ワーク（進め方）

目的

- 他市町村の実践と気づきに学び、わがまちの取組を振り返る。
- （都道府県）地域の実情を知る。

- ✓ 1市町村当たり10分×5市町村（発表順は資料の並び順）
- ✓ 進行、時間管理、記録は、都道府県職員が担当してください。

実践演習① の報告 (5分)

ネクストアクション検討シートのうち、

- (1) 取り組みたいこととその理由
- (2) 更に調べたり検討したいこと
- (4) 実践を通しての新たな気づき

について報告してください。

(1) 最初に取り組みたいこととその理由	(3) ライブ研修で意見交換したいこと
<p>わがまちより良い「連携」や「協働」のために、最初に取り組みたいと思うこととその理由を記載してください。</p> <p>※前ページの課題検討シートを使う場合は、前ページの写に挙げた「取り組むべき事・取り組みたいこと」を照らして検討ください。</p>	<p>わがまちより良い「連携」や「協働」を実現していくにあたり、11月のライブ研修で、他の市町村や講師と意見交換してみたいことを挙げてください。</p>
(2) 更に調べたり検討したいこと	(4) 実践演習を通しての新たな気づき
<p>取り組みたいことを具体化・実現するために、更に調査や検討が必要と思うことがあれば、記載してください。</p>	<p>実践演習に取り組み中で、新たにわかったこと、チームメンバーが得た気づきなどを記載してください。</p> <p>チームメンバーの気づきを共有することで今後の連携・協働に向けて大切にしたいことを改めて考えてみましょう。</p>

フィード バック (5分)

- ✓ 他の市町村参加者から、発表市町村の実践のうち「良かった点」を伝えましょう。
- ✓ まずは、次に発表する市町村の参加者が口火を切ってください。
- ✓ 建設的な「良い点」のフィードバックが発表市町村にとっても他の市町村にとっても、わがまちの振り返りに役立ちます。

市町村間ワーク — Memo

市町村名	実践演習①の報告内容	発表市町村の実践のうち「良かった点」

6

1. 本研修（基礎編）の全体像
2. 本日の研修内容
3. イントロダクション・取組事例報告
4. 市町村内ワーク
5. 市町村間ワーク
6. 参加市町村からの取組共有
7. 実践演習②ガイダンス
8. 次回に向けた連絡事項

6. 参加市町村からの取組共有

実践演習①で挙げた主なテーマ

1. **関係機関同士の顔の見える関係づくりの工夫、取組事例**
2. **多分野連携の事例等**
(例：地域、企業、教育、警察 等)
3. **連携をスムーズに行うための研修や勉強会、内容、対象、頻度**
4. **関係部署との連携**
(例：庁内他課への重層事業の理解促進、協力が得にくい部署の巻き込み、関係部署との垣根を低くする工夫 等)
5. **重層的支援会議・支援会議**
(負担がなく効果的な方法、頻度、参加者、進行、会議後の機関間のつながり)
6. **連携方法**
(連携フロー、マニュアル、ルール、様式、情報共有ツール、個人情報の取り扱い、)

6. 参加市町村からの取組共有 —Memo

1. 本研修（基礎編）の全体像
2. 本日の研修内容
3. イントロダクション・取組事例報告
4. 市町村内ワーク
5. 市町村間ワーク
6. 参加市町村からの取組共有
7. 実践演習②ガイダンス
8. 次回に向けた連絡事項

7. 実践演習② ガイダンス

到達 目標

- ✓ わがまちの既存の取組や資源を知り、活かせる可能性を見出す
- ✓ わがまちの各参加者の問題意識や取り組みたい事を知り、自身で、または関係者とともに取り組みたいことを見出す
- ✓ 自身の役割を果たすために、分野別研修で学びたいことを整理する。

- 1. ライブ研修での気づき・学びを踏まえ、改めて実践演習①で検討した「最初に取り組みたいこと」を見直し、今後の連携強化や協働の仕組みづくりに向けて、複数の機関・担当課で連携して取り組みたいことをチームで決めましょう。**
 - ✓ 個人や一機関では対応できない課題について、深めたい/やってみたい/乗り越えたいことをチームメンバーで考えてください。
- 2. 上記で決めた取り組みたいことについて、関係しそうなこれまでの取組や活かせるような資源を、思いつく限り挙げてみましょう。**
 - ✓ 既存の制度での取組、行われている会議、人材、これまでの地域福祉やまちづくりに関する取組、地域の活動 等
 - ✓ これまでにやろうとしたけどできなかったことやうまくいかなかったことがあれば、その棚卸しもしてみましょう。
- 3. 上記2. で挙げた取組・資源について、「取り組みたいこと」との重なりや活かせる可能性を検討しましょう。**
 - ✓ 既存の取組に学ぶ、活かす、重ねる、掛け合わせる、発展させる、新たなプロジェクトを立ち上げる 等
 - ✓ 可能であれば、既存の取組・資源に関わる人へのヒアリングや対話を行い、連携可能性を探ってみましょう。
- 4. 上記3. の検討結果を踏まえて、今後取り組みたいことを更に具体化しましょう。**
 - ✓ 短期的に取り組んでみたいことや目標、その後の発展の方向性、ハードル、チームメンバー個々人ができること 等

7. 実践演習② ガイダンス

1. 複数の機関・担当課で連携して取り組みたいこと

<取り組みたいこと> ※個人や一機関では対応できない課題について、深めたい/やってみたい/乗り越えたいことをチームメンバーで考えてください。

<理由> ※なぜこのテーマを選んだのか、ケーススタディやチーム検討の結果とのつながりを記録しておきましょう。

2. 関係しそうな既存の取組や活かせる資源

- 既存の制度での取組、行われている会議、人材、これまでの地域福祉やまちづくりに関する取組、地域の活動 等
- これまでにやろうとしたけどできなかったことやうまくいかなかったことがあれば、その棚卸しもしてみましょう。
- 行政内、支援機関、地域（様々な主体・活動・住民等）の観点から挙げてみましょう。

3. 「取り組みたいこと」との重なりや活かせる可能性

- 2. の取組・資源のうち、活かせる可能性のあるものと、その理由や活かし方を挙げましょう。
- 可能であれば、既存の取組・資源に関わる人へのヒアリングや対話を行い、連携可能性を探ってみましょう。

4. 今後取り組みたいことを更に具体化

具体化にあたり、以下の観点を参考に検討して見ましょう。

- 短期的に取り組んでみたいことや目標
- その後の発展の方向性
- 実現していくにあたってのハードル
- チームメンバー個人ができること・役割等を記載しましょう。

7. 実践演習② ガイダンス

- ✓ 今回の実践演習を通じた取組を記録しておき、チームとしての振り返りや、研修参加者以外への共有に活用しましょう。

チームで実施したこと	得られた気づき
<ul style="list-style-type: none">• 日付：実施事項、メンバー、実施結果 等を記録	<ul style="list-style-type: none">• 実践演習を通じて、チームメンバーそれぞれが新たに知ったことや気づいたこと 等を記録

7. 実践演習② ガイダンス

- ✓ 複数の機関・担当課で連携して取り組みたいことを検討する際の参考枠組みとして、任意で活用ください。

実践演習①で検討した（1）最初に取り組みたいこととその理由

ライブ研修②での気づき・学び（チームの各メンバーの気づき・学びを共有し、リストアップしてみる）

改めて、複数の機関・担当課で連携して取り組みたいことをリストアップ

→チームメンバーそれぞれの考えを共有した上で、優先度の高いものや、最初のステップとして取り組めそうなもの検討してみましょう。



1. 本研修（基礎編）の全体像
2. 本日の研修内容
3. イントロダクション・取組事例報告
4. 市町村内ワーク
5. 市町村間ワーク
6. 参加市町村からの取組共有
7. 実践演習②ガイダンス
8. 次回に向けた連絡事項

8. 次回に向けた連絡事項

- 次回ライブ研修
2023年1月中下旬（予定）
オンライン（Zoom）
- 実践演習ワークシート提出
〆切：2023年12月20日（火） 正午
※ 提出様式、提出方法は別途ご案内いたします。
※ 提出いただいた内容を確認し、再提出をお願いする可能性もあります。
- 本日の受講後アンケート回答のお願い
回答URL：<https://questant.jp/q/SPH6P0D0>
- 分野別研修に関するアンケートのお願い
実施期間：11月28日（月）～12月9日（金） 正午（予定）
※ アンケート回答URL等は別途ご案内いたします。

